

平成27年度事業報告

平成26年11月4日（設立日）～平成27年10月31日

一般財団法人 CHANGアジアの子供財団

事業報告書

1. 設立目的

当法人は、世界の子供の健全な成長を支援することを目的とし、その目的に資するため次の事業を行う。

- (1) 発展途上国及び被災地の孤児を中心とする子供達に対する生活、教育及び就業の支援
- (2) 発展途上国及び被災地における孤児を中心とする子供達の生活、教育及び就業の支援を目的とする施設・団体等に対する援助
- (3) 前各号に付帯関連する一切の事業

2. 概況

世界には日本では考えられないほど、親と暮らすことができない子ども達があります。本当に子供を捨ててしまう親もいれば、経済的な理由で育てることができない家庭もあります。また親が薬物中毒や犯罪で収監中であつたり、親からの虐待や強制的な児童労働に苦しめられている子ども達もいます。ストリートチルドレン、物乞いで生活している子ども達の環境は衛生的にも治安的にも非常に危険です。こうした子ども達を保護しなければ、犯罪に走ってしまつたり、人身売買の対象となつたり、幼い命を落としてしまうことも多々あるのはとても悲しいことです。

こうした環境から保護された子ども達の多くは孤児院や保護施設で生活をしています。どの子も親のいない環境に負けず、とても元気に遊び、一生懸命に勉強しております。しかし現実には厳しく、資金不足、物資の不足は深刻です。お米や水、勉強道具、日本だったら普通に手に入る生活必需品が常に足りないという状況を、どこの施設からも聞くことになりました。

活動のスタートはタイでしたが、周辺国を訪問すると更に過酷な現状を知ることになりました。ベトナム戦争の傷跡は深く、敵国が撒いた枯れ葉剤は今の子ども達に重度の障害をもたらしています。カンボジアは内戦で国民の三分の一以上もが虐殺され、国が崩壊した歴史があります。ラオスも内戦を繰り返し、国連の基準では最貧国に分類されています。こうした歴史的、社会的な背景が国の発展を大きく遅らせ、貧困を招き、無関係の今の子ども達の生活と未来に大きな不安を与えているのです。

救えるはずの幼い命を落とすことがないように、ご飯が食べれて、勉強ができて、たくさん遊べて、危険から守られるように。子ども達が持つ美しい夢が現実となるように、一般財団法人として活動をスタートさせた一年でした。

3. 活動の成果

初年度ではありましたが、企業、NPO法人、学生、スポーツ関係の一般財団法人からも活動への賛同とご協力を頂くことができました。こうした様々な方からのご協力のもとに、寄付金だけでなく、勉強道具、運動具、生活用具、衣類などを、ベトナム、カンボジア、ラオス、タイの多くの子ども達へ届けることができました。またタイ国の福祉分野では国家最優秀者にも選ばれているラチャニードンチャイ先生が当財団の顧問的な存在になって下さり、先生が校長を務めるタイの子供財団とは協力関係を結ぶこともできました。そして当法人設立前に建設したカンボジアの職業訓練施設も順調に稼働、加えてトイレとシャワーの設置、ラオスには浄水器、貯水槽を設置し水道も増設することができましたこと等が、初年度の成果であったと捉えております。

4. 海外での公益活動実施状況

日程	訪問国	訪問施設名 (スラム名)	活動内容 (寄付金と食材の提供に加 えた内容)	子供 の数	参 加 人 数
11月4日～	ベトナム	マイアムデッツェン孤 児院	勉強道具の提供	125	4
11月4日～	ベトナム	ロンホワン孤児院	勉強道具の提供	90	4
11月4日～	ベトナム	ファブォ孤児院	勉強道具の提供	80	4
11月4日～	ベトナム	テレサファシュ 孤児院	勉強道具の提供	58	4
11月6日～	カンボジア	スタンミエンチャイ 小学校	勉強道具の提供	220	4
11月6日～	カンボジア	SCADP 孤児院	勉強道具の提供	33	4
11月6日～	カンボジア	バサック孤児院	勉強道具の提供 職業訓練施設オープン	35	4
11月8日～	ラオス	フレンズ保護施設	勉強道具の提供	50	5
11月8日～	ラオス	ワットシーアンボン 小学校	勉強道具の提供	57	5
11月11日～	タイ	タイの子供財団 孤児院	勉強道具の提供	60	4
3月18日～	ベトナム	マイアムデッツェン	ボール等、運動具の提供	125	4
3月18日～	ベトナム	ロンホワン	ボール等、運動具の提供	90	4
3月18日～	ベトナム	ファブォ	ボール等、運動具の提供	80	4

3月18日～	ベトナム	テレサファッシュ	ボール等、運動具の提供	58	4
3月20日～	カンボジア	スタンミエンチャイ	ボール等、運動具の提供	220	4
3月20日～	カンボジア	SCADP	ボール等、運動具の提供	33	4
3月21日～	カンボジア	バサック	ボール等、運動具の提供	35	4
3月22日～	カンボジア	クパールコッ小学校	ボール等、運動具の提供	400	4
3月23日～	ラオス	フレンズ	ボール等、運動具の提供	50	5
3月23日～	ラオス	ワットシーアンボン	ボール等、運動具の提供	57	5
3月27日～	タイ	タイの子供財団	ボール等、運動具の提供	60	5
3月27日～	タイ	ワットボートボラティット 孤児院	ボール等、運動具の提供	250	5
3月27日～	タイ	ワットサオ孤児院	ボール等、運動具の提供	1800	5
6月23日～	カンボジア	バサック	勉強道具の提供 職業訓練施設の運営確認	35	4
6月24日～	カンボジア	スタンミエンチャイ	勉強道具の提供	220	4
6月24日～	カンボジア	SCADP	勉強道具の提供	33	4
6月26日～	ラオス	フレンズ	勉強道具の提供	50	5
6月26日～	ラオス	ワットシーアンボン	勉強道具の提供 浄水器の設置	57	5
6月30日～	タイ	タイの子供財団	ボール等、運動具の提供	60	5
7月1日～	タイ	泰華孤児院	ボール等、運動具の提供	95	5
7月1日～	タイ	パークレットベビーズホーム	ボール等、運動具の提供	320	5
7月1日～	タイ	パークレットボイズホーム	ボール等、運動具の提供	195	5
7月1日～	タイ	パヤタイベビーズホーム	ボール等、運動具の提供	350	5

7月1日～	タイ	ラチャウィティガールズホーム	ボール等、運動具の提供	406	5
7月1日～	タイ	バンソックカミン孤児院	ボール等、運動具の提供	40	5
10月1日～	ラオス	フレンズ	衣類の提供	50	5
10月1日～	ラオス	ワットシーアンボン	衣類の提供	57	5
10月3日～	カンボジア	バサック	衣類の提供 トイレ・シャワーの設置	35	4
10月4日～	カンボジア	SCADP	衣類の提供	220	4
10月4日～	カンボジア	スタンミエンチャイ	衣類の提供	33	4
10月4日～	カンボジア	バークンスラム	視察とミーティング	30	4
10月4日～	カンボジア	バーコッスラム	視察とミーティング	30	4
10月7日～	タイ	子供の村学園	知育教材の提供と実施	123	5
10月10日～	タイ	バンナムーン孤児院	ボールと勉強道具の提供	130	5
10月10日～	タイ	ローレンゾウ HIV 治療施設	ボールと勉強道具の提供	30	5
10月10日～	タイ	ワットビヤン孤児院	ボールと勉強道具の提供	500	5

・公益活動以外の事業は一切行ってません。

5. 出版・広報

送付日	名称	主な内容
3月1日～	CHANG春号(季刊誌)	バサック孤児院の職業訓練施設完成
7月1日～	CHANG夏号(季刊誌)	全支援施設へバレーボールの提供 ラオスの水質改善工事が完了
10月1日～	CHANG秋号(季刊誌)	衣類1万着の配布をスタート
7月17日～	J-WAVE(ラジオ)	東南アジアの子ども達の現状について

・その他、ホームページやFacebookにて随時情報提供

6. 協力団体等

団体名	協力内容
タイ国 子供財団 (Foundation for Children)	知育教育の研究と推進
公益財団法人 日本バレーボール協会	バレーボールの寄付
NPO 法人 日本救援衣料センター	衣類の寄付
(株)日本エコプランニングサービス	スタディツアー企画
国際学院高等学校 バレーボール部・サッカー部	ボールの寄付
双実ロジスティクス(株)	海外輸送支援
タイ国 タマサート大学 日本人留学生 (有志)	街頭募金・海外活動への参加

7. 評議員・役員に関する事項

役職名	氏名	就任年月日
評議員	柗澤 玄樹	平成 26 年 11 月 4 日
評議員	木村 孝禅	平成 26 年 11 月 4 日
評議員	佐久間 茂	平成 26 年 11 月 4 日
代表理事	齋藤 浩司	平成 26 年 11 月 4 日
理事	山崎 雅史	平成 26 年 11 月 4 日
理事	塚田 昭平	平成 26 年 11 月 4 日
理事	後藤 範泰	平成 26 年 11 月 4 日
監事	齋藤 尚久	平成 26 年 11 月 4 日

8. 各種会議の開催

会議名	開催回数等	実施日	備考
評議員会	第2回 評議員会	11月4日	
理事会	第2回 理事会	11月15日	
理事会	第3回 理事会	12月20日	評議員同席
理事会	第4回 理事会	3月10日	
理事会	第5回 理事会	6月19日	

9. 総括

初年度であり、まずは多くの施設を訪問し現況確認を優先した一年でした。実際に訪問すると、中には日本の学校以上に設備が整い、世界中の企業や訪問者からの支援で潤っているように見受けられる施設も多々ありました。当財団はまだ余裕がありませんので、今は本当に支援が必要な施設を焦点としてサポートすることしかできません。よって今後は初年度で精査できた各施設の中から、対象を絞っての支援活動を行っていきます。また会員や提携企業の増加を推進し、助成金への公募も検討したいと考えてます。

想像以上に多くの方からのご協力を頂き、たくさんの子ども達の現状を知り、できる限りのサポートができた意義ある一年でした。しかしより効率のよい支援金や物資の提供など、初年度で学んだことを今後に活かして活動を行う必要性を強く感じた一年でもありました。